

DPRI Award 設立の趣旨および第4回 DPRI Award 受賞者決定の経緯

研究教育担当副所長 西上欽也

防災研究所は、国内外で発生する自然災害を研究対象とすることから、従来から国際交流協定の締結、国際共同研究、海外災害調査や留学生・海外共同研究者の受け入れなど積極的に取り組んできました。平成22年度に認定され開始した共同利用・共同研究拠点は今年度から2期目に入り、また、防災研究所が事務局を務める世界防災研究所連合（GADRI）は今年度、第3回世界防災研究所サミットを開催するなど、防災研究所は頻発する国内外での自然災害に備えるための国際防災研究拠点として、その地位を確立するために、様々な新しい取り組みを推進しています。

これらの一環として平成23年3月に「京都大学防災研究所国際表彰規程」が制定され、DPRI Award が設立されました。その表彰の要件は概略下記のとおりです。

1) 防災研において、客員教員や共同研究者などとして滞在し、セミナーや共同研究などを実施し、防災研の研究教育に成果を上げた方

2) 防災研が主催する研究集会等において、基調講演、招待講演等を務め、又は企画運営に携わり、防災研の活動に貢献した方

3) 防災研が実施する国際共同研究及び現地調査等において貢献した方

平成25年度には第1回の防災研究所国際表彰 DPRI Award をカリフォルニア工科大学名誉教授の金森博雄博士に授与いたしました。また、平成26年度には第2回 DPRI Award をメキシコ自治大学教授のサンチェズセスマ博士に、平成27年度には第3回 DPRI Award をウォータールー大学教授のキース・ハイペル博士に授与いたしました。

今回平成28年度の国際表彰について、平成28年11月に防災研究所の千木良教授および多々納教授から推薦があり、表彰選考委員会で慎重に審議しました。その結果、ローザンヌ大学教授のミシェル・ジャボイエドフ博士を「研究教育貢献賞」として、また国際応用システム分析研究所のリスク・レジリエンスプログラムを「国際学術貢献賞」として、第4回の防災研究所国際表彰 DPRI

Award の受賞者として所長に推薦することを決定いたしました。その後、所長の承認を受け、これを教授会に諮り承認されました。

ジャボイエドフ教授は 1962 年スイスに生まれ、1999 年にローザンヌ大学から博士号 (Ph.D.) を取得後、スイス連邦工科大学ローザンヌ校での研究員などを経て、2005 年にローザンヌ大学地球・環境学部地球科学研究所教授に着任されました。2016 年からは地球・環境学部副学部長を務められています。ジャボイエドフ教授は、地すべり、落石などのマスマーブメントのモデル化、危険度評価についての第一線の研究者であり、特に、節理や断層などの不連続面の形態的抽出に有効なプログラム Coltop を 2003 年に開発し、斜面の安定解析に新しい道を開くとともに、地すべりへのレーザー計測の適用に関する重要な論文を発表するなど、高く評価されています。これらの研究成果は膨大な量の研究論文として発表されており、現在でも毎年数多くの研究論文を発表されています。ジャボイエドフ教授は、斜面における様々な移動・変形現象の学際的研究に関する国際会議「Slope tectonics」の創始者であり、またヨーロッパ地球科学連合 (EGU) においても地すべり災害研究分野の第一人者として活躍されています。

防災研究所においては、招へい外国人学者として 2015 年度に 1 ヶ月間滞在され、「斜面の形態分析による地すべりのすべり面推定」をテーマに共同研究を進められました。また、これらの研究内容に関連した講演・講義等を行い、斜面災害に関係する分野の学生・若手研究者への教育を熱心に行われました。

これらジャボイエドフ教授との共同研究や彼の学生・若手研究者への継続的な研究・教育の実績は防災研究所の国際プレゼンスの向上に大いに寄与してきました。ジャボイエドフ教授にはこれまでのご貢献に深く感謝するとともに、今後も受賞者に授与される終身称号の DPRI Fellow として、防災研究所の研究・教育に大所高所からご指導・ご助言いただければ大変ありがたく存じます。

国際応用システム分析研究所 (International Institute for Applied Systems Analysis, IIASA) は、1972 年、成熟社会に共通する諸課題を研究するために、オーストリアのウィーン近郊に設立されました。2016 年 11 月現在で 24 カ国が参加しています。IIASA は、社会の持続可能性および地球規模の変動が及ぼす影響について環境、経済、技術および社会発展等の多様な側面からの分析を行

い、また人間と環境の相互作用過程についての分析、最新の応用システム分析手法の開発などを行う世界有数の国際研究所です。

防災研究所と IIASA は、2001 年から 2009 年まで、毎年、9 回にわたり総合防災に関する国際会議（IIASA-DPRI Annual Meeting for Integrated Disaster Risk Management）を開催してきました。2009 年に京都で開催した第 9 回会議において、より多くの機関や研究者のリーダーシップを発揮できるように、新たに国際総合防災学会（International Society for Integrated Disaster Risk Management、IDRiM Society）を設立し、活動を継続することになりました。IDRiM Society においては、2010 年の第 1 回国際会議の開催（オーストリア、ウィーン環境・生命科学大学）以来、本年度（2016 年）の第 7 回会議の開催（イラン、イスファハン市）に至るまで、7 回の国際会議を開催し、総合防災に関する国際的な研究をリードしてきました。防災研究所と IIASA は、この間一貫して、IDRiM Society の主要な設立メンバーとして研究協力と貢献を続けています。Nature 誌において防災研究所が、総合防災に関する世界的な研究拠点として紹介されるに至ったのも、これらの活動によるところが大きいと考えられます。

IIASA の中でも上記活動の中心であるリスク・レジリエンスプログラム（Risk and Resilience Program）は、防災研究所が総合防災に関する国際的な研究展開を推進するうえで大きく貢献し、防災研究所の国際プレゼンスの向上に大いに寄与してきました。リスク・レジリエンスプログラムにはこれまでのご貢献に深く感謝するとともに、今後も受賞団体に授与される称号の DPRI Fellow Institute として、防災研究所とともに国際的な学術研究活動の発展に貢献いただければ大変ありがたく存じます。